

第 88 回 幹 事 会

平成 22 年 1 月 28 日

日 本 学 術 会 議

第88回幹事会議事次第

日時：平成22年1月28日（木）14：00

- | | |
|--------------|---|
| 非公開審議事項 | |
| 1 連携会員関係 | 提案1 補欠の連携会員候補者の選考 |
| 2 委員会関係 | 提案2 国際人権ネットワーク対応委員会の委員の決定 |
| | 提案3 国際委員会における分科会の委員の決定 |
| | 提案4 分野別委員会における委員会等の委員の決定等 |
| 3 外部委員候補者の推薦 | 提案5 外部委員候補者の推薦 |
| 4 その他 | |
| 審議事項 | |
| 1 提言等 | 提案6 報告「黄砂・越境大気汚染物質の地球規模循環の解明とその影響対策」 |
| 2 団体等の指定 | 提案7 日本学術会議協力学術研究団体の指定 |
| 3 国際会議関係 | 提案8 平成21年度代表派遣（平成22年3月分） |
| | 提案9 イスラエル科学・人文科学アカデミー創立50周年記念式典への会員の派遣 |
| 4 シンポジウム等 | 提案10 第16回ウ・タント記念講演 |
| | 提案11 公開シンポジウム「黄砂・沙漠緑化・草地保全・人工降雨研究の最前線」 |
| | 提案12 生体医工学フォーラム2010「トランスレーショナルリサーチ、レギュラトリーサイエンスの現状と課題」 |
| | 提案13 公開シンポジウム「学校教育の質をどのように評価するか：学校の機能と評価」 |
| | 提案14 公開シンポジウム「地域主権と道州制」 |
| | 提案15 公開シンポジウム「ノーベル化学賞記念シンポジウム：大型放射光を使った生体分子の構造解析」 |
| | 提案16 公開シンポジウム「社会福祉学（ソーシャルワーク実践）大学院教育のあり方 高度専門職養成と研究者養成」 |
| | 提案17 公開シンポジウム「地理」で学ぶ防災 |
| | 提案18 公開シンポジウム「環境市民活動は何を目指すのか？～環境共生社会における役割と目標について考える～」 |
| | 提案19 「データセントリックサイエンスがつくる未来」 |
| | 提案20 「自然災害軽減のための学協会の役割と課題」シンポジウム |
| | 提案21 公開シンポジウム「先端フォトニクスの展望」 |
| | 提案22 公開シンポジウム「植物工場における自動化・情報化技術の展望」 |
| | 提案23 公開シンポジウム「生物多様性をめぐる科学と社会の対話」 |
| 5 後援 | 提案24 国内会議 |

その他

資料2

第88回幹事会（1月28日）出席者一覧

会長		金澤 一郎
副会長		大垣 眞一郎
副会長		鈴村 興太郎
副会長		唐木 英明
第一部	部長	広渡 清吾
第一部	副部長	小林 良彰
第一部	幹事	木村 茂光
第一部	幹事	山本 眞鳥
第二部	部長	浅島 誠
第二部	幹事	山本 正幸
第二部	幹事	鷺谷 いづみ
第三部	部長	岩澤 康裕
第三部	副部長	後藤 俊夫
第三部	幹事	池田 駿介

事務局長 竹林 義久

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
2 幹事会声明	1
3 審議付託等	3
4 賞等の推薦	4
5 委員会委員の辞任	4
第 2 各部・各委員会等報告	
1 部会の開催とその議題	5
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	5
3 機能別委員会の開催とその議題	5
4 分野別委員会の開催とその議題	6
5 課題別委員会の開催とその議題	11
6 サイエンスカフェの開催	12
7 総合科学技術会議報告	13
8 慶弔	14

第 1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
12月25日(金)	科学技術・学術審議会総会 会長代理出席	大垣副会長
	文部科学省政務三役との意見交換会	鈴木副会長、唐木副会長
1月7日(木)	総合科学技術会議有識者会合	竹林局長
	津村政務官との意見交換会	金澤会長
1月12日(火)	講書始の儀	金澤会長、鈴木副会長
1月12日(火) ~15日(金)	IAP 総会(ロンドン)	唐木副会長、黒田玲子会員 土居連携会員
1月14日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
1月15日(金)	公開シンポジウム「メタボロミクス研究の最前線とメタボライトデータベースの役割」(日本学術会議講堂) 挨拶	金澤会長
	日本学術会議会長と関係記者会との懇談会	金澤会長
1月18日(月)	阪神・淡路大震災 15 周年フォーラム(神戸) 開会挨拶	大垣副会長
1月19日(火)	総合科学技術会議第 58 回生命倫理専門調査会	金澤会長
1月21日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
	総合科学技術会議 革新的技術選定等会議	金澤会長
1月25日(月)	総合科学技術会議 第 82 回 評価専門調査会	金澤会長
1月27日(水)	総合科学技術会議 第 4 回 基本政策専門調査会	金澤会長

2 幹事会声明

日本学術会議幹事会声明

<日本の未来世代のために我々が今なすべきこと>

昨年 9 月に発足した新政権の下で日本は新しい歩みを始めました。マニフェストの実現、政治主導、官僚依存からの脱却、事業仕分けなど、新しい試みの最初の成果として、昨年末に平成 22 年度予算の政府案が国民に示されました。この予算案が公表されたことを受けて、日本学術会議は幹事会として以下のような声明を発出いたします。

先に挙げた新しい試みの一つとしての事業仕分けが、ある段階まで進んだ昨年 11 月 20 日に、日本学術会議は会長談話を発出し、予算編成に当たって人文・社会科学を含む基礎研究から開発研究に至るまでの学術研究を重視するべきことを述べまし

たし、12月7日にも会長談話を発出し、大学等高等教育に対する的確で長期的な支援をするべきことを述べました。

さて、新政権による新しい方式に則った予算編成というこの度の一連の経過を見ていますと、高等教育・学術・科学技術など、我が国の将来を決する重要な要素に関して、長期的にみて今後それらをいかに推進するのかというバックボーンが改めて問われていることを痛感しました。すなわち、意欲ある人材の養成と能力開発、人類の知的基盤形成を目指す基礎科学研究環境の整備、豊かな社会形成のために必要なイノベーションに繋げる研究開発環境の整備などに向けた基本的考え方とそれに基づく具体的方策を、長期的視点で国民に示す必要があるのです。言い換えれば、この国が何を頼りにしながらどこを目指しているのかを、明確にする必要があるということです。

この点に関して、総合科学技術会議では第4期科学技術基本計画の原案を作成し始めており、同時に総合科学技術会議そのもののあり方を政府として検討する方向でもあると聞いています。さらに、我々日本学術会議では「日本の展望 - 学術からの提言 2010」をまとめる最終段階にあります。

言うまでもありませんが、日本学術会議の最重要機能は、政府・行政への政策提言であります。「日本の展望 - 学術からの提言 2010」は、その政策提言の集大成であります。現在は「素案」ですが、4月の総会を経て発出される最終案でもその骨格は大きく変わることはないと考えます。これを一口に言えば、持続可能な人類社会と日本社会の展望を切り開くために、人文・社会科学から自然科学まですべての学術的活動の総合力を発揮し、出口としての技術をもっぱら重視する科学技術政策から基礎研究をしっかりと位置付ける総合的な学術政策への転換が必須であることを述べています。

日本学術会議はまた、「日本の展望」の作成と並行して、昨年12月に総合科学技術会議に提出しました「第4期科学技術基本計画への日本学術会議の提言」においても、我々の基本的立場を表明しています。

具体的には、「日本の展望 - 学術からの提言 2010」に述べていますように、大学のあり方への提言、基礎科学のあり方への提言、研究開発のあり方への提言などを参考にしてほしいと思いますが、その範囲を超える日本学術会議に対しての要請にも、できる限り速やかに対応できる体制をとるつもりです。

我が国が進む道の長期展望に関して本格的な議論が始まろうとするこの時期にあたり、科学者の代表機関であり内閣府の組織である日本学術会議は、新政権のこれからの精力的な取組を期待し、新しい日本の“ルネサンス”の実現のために、学術の見地から更なる提言と実効的なサポートを行う決意であることを改めて表明します。

(注)「日本の展望 - 学術からの提言 2010」の素案及び「第4期科学技術基本計画への日本学術会議の提言」は、日本学術会議のホームページで公開されています。

「日本の展望 - 学術からの提言 2010」の素案：

(<http://www.scj.go.jp/ja/info/iinkai/tenbou/pdf/soan.pdf>)

「第4期科学技術基本計画への日本学術会議の提言」：

(<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-t85-1.pdf>)

平成22年1月15日
日本学術会議幹事会

会長 金澤 一郎
副会長 大垣眞一郎
同 鈴村興太郎
同 唐木 英明
第一部長 広渡 清吾
同 副部長 小林 良彰
同 幹事 木村 茂光
同 幹事 山本 眞鳥
第二部長 浅島 誠
同 副部長 北島 政樹
同 幹事 山本 正幸
同 幹事 鷲谷いづみ
第三部長 岩澤 康裕
同 副部長 後藤 俊夫
同 幹事 池田 駿介
同 幹事 海部 宣男

3 審議付託等

件名	申請者	審議付託先
第一東京弁護士会綱紀委員会の委員及び予備委員候補者の推薦	第一東京弁護士会会長	第一部
独立行政法人日本学術振興会評議員候補者の推薦	独立行政法人日本学術振興会理事長	科学者委員会
第1回国際常民文化研究機構・国際シンポジウム「海民・海域史からみた人類文化」の後援	国際常民文化研究機構運営委員会委員長 神奈川大学日本常民文化研究所所長	第一部
日本海洋学会ワークショップ「ブレーク・スルー研究をめざして」の後援	日本海洋学会会長	第三部
第47回日本伝熱シンポジウムの後援	社団法人日本伝熱学会会長	第三部
日本化学会第90春季年会特別企画「物質や生体の姿を描く先端計測科学：原子分子から・超分子・細胞・生体まで」の後援	日本化学会会長	第三部
土と肥料の講演会の後援	社団法人日本土壌肥料学会会長	第二部

第4回日本化学連合シンポジウム 「日本の科学技術を担う研究者を 育てる」の後援	日本化学連合会長	第三部
国際惑星地球年（IYPE）終了記 念イベント「惑星地球フォーラム20 10 in アキバ」の後援	国際惑星地球年日本会長	第三部
日本学術会議協力学術研究団体の指定	社団法人全国保育士養成協議会他	科学者委員会

4 賞等の推薦

件 名	照 会 先	備 考
Balzan 賞	各部	照会中
フランス学士院 2010 年度 Lefoulon Delalande 科学賞	各部	推薦なし

5 委員会委員の辞任

地域研究委員会多文化共生分科会 内藤 正典（平成21年12月14日付）
 化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会
 板谷 謹悟（平成21年12月28日付）
 地域研究委員会国際地域開発研究分科会 服部 民夫（平成22年1月19日付）
 末廣 昭（平成22年1月19日付）
 田島 俊雄（平成22年1月19日付）

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

- (1) **第三部拡大役員会** (第16回)(12月25日)
日本の展望 - 理学・工学からの提言2010 (提出版)
第4期科学技術基本計画への緊急提言 (最終版)
分野別委員会の展望 (報告) の査読委員の割振りについて
各分野別委員会から展望に関するシンポジウム計画の状況報告
会長談話について
平成22年度第三部夏季部会について
日本工学アカデミーとの懇談会について
理学・工学系学協会連絡協議会について
シンポジウム主催等内規 (確認) について
その他

- (2) **第三部役員会** (第2回)(1月14日)
第88回幹事会提案について

- (2) **「日本の展望 - 生命科学からの提言」に関する第二部拡大役員会**
(第1回)(1月18日)
「日本の展望 - 生命科学からの提言」取りまとめについて その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

なし

3 機能別委員会の開催とその議題

- (1) **科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会** (第12回)(1月15日)
学術の大型装置計画・大規模研究計画最終リスト案の取りまとめ
提言素案の検討 その他

- (2) **科学と社会委員会 年次報告等検討分科会** (第9回)(1月14日)
外部評価委員からの評価聴取 その他

- (3) **科学者委員会** (第19回)(1月15日)
学会名鑑のデータベース化 協力学術研究団体におけるフォローアップ調査及び規程等の見直し 協力学術研究団体の指定 平成22年度日本学術

会議主催公開講演会（第1、2回）の企画案募集 その他

（4）科学者委員会男女共同参画分科会（第8回）（1月18日）
共催シンポジウムの開催内容

（5）科学と社会委員会（第9回）（1月19日）
日本学術会議主催ミニ・シンポジウムの開催について
国際人権ネットワーク委員会報告
知のタペストリー・シリーズの現状報告
その他

（6）選考委員会（第5回）（1月20日）
補欠の連携会員の候補者の選考について 平成23年10月の会員及び連
携会員の改選に向けて その他

（7）国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2010分科会
考委員会（第1回）（1月21日）
分科会について 会議概要について プログラムについて 各担当者
について（Chair / Co-Chair等） 今後のスケジュールについて その他
次回分科会について

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

（1）史学委員会 歴史認識・歴史教育に関する分科会（第6回）（12月26日）
三谷博委員の報告 - 「東アジアの近現代史」について
大学における歴史教育について - 分科会の今後の活動内容 その他

（2）史学委員会 文化財の保護と活用に関する分科会（第2回）（12月27日）
テーマ「発掘調査の質の確保について」
報告1 全国的な視点による報告
坂井 秀弥氏（奈良大学文学部文化財学科教授）
報告2 東日本からの報告
長岡 文紀氏（神奈川県教育委員会生涯学習文化財課主幹）
報告3 西日本からの報告
大沼 芳幸氏（滋賀県文化財保護協会調査普及課長）
その他

（3）地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同 地理教育分科会（第4回）
及び学校地理教育小委員会（第2回）、地図/GIS教育小委員会（第1回）

環境・防災教育小委員会（第1回）、大学地理教育小委員会（第1回）
（12月27日）
イギリスの地理教育と参照基準について（上越教育大学准教授：志村 喬）
その他

（4）地域研究委員会 人類学分科会（第4回）（1月11日）
大学教育の分野別質的保証について 分科会シンポジウムについて
連携会員の追加について その他

（5）地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IHDP分科会
（第3回）、UGEC小委員会（第3回）、VRA小委員会（第3回）
（1月15日）

地球惑星科学連合IHDP国際セッションについて
分科会委員の補充について VRA小委員会について
UGEC小委員会について
関連委員会・小委員会等の動静

- 1) IGBP/WCRP
- 2) GLP
- 3) GCP
- 4) LOICZ
- 5) その他

今後の活動計画について その他

（6）社会学委員会 社会調査分科会（第2回）（1月18日）
日本の社会調査関連データアーカイブの現状と課題について

- 1) 東京大学社会科学研究所教授 佐藤 博樹氏（連携会員）
- 2) 兵庫教育大学大学院学校教育研究科教授
教育・社会調査研究センター長 渡邊 康雄氏（参考人）
- 3) 中央大学法学部教授 中澤 秀雄氏（参考人）
- 4) 埼玉大学経済学部教授
社会調査研究センター長 松本 正生氏（参考人）
- 5) 立教大学社会情報教育研究センター設置準備室助教
廣瀬 毅士氏（参考人）

その他

（7）地域研究委員会 国際地域開発研究分科会（第5回）（1月19日）
新しい産業支援策も停めて：園部 哲史委員
これからの農業支援策：大塚 啓二郎委員長
その他

- (8) **法学委員会 立法学分科会** (第 5 回)(1 月 2 0 日)
政権交代後の立法過程のあり方
報告者：古川 俊治 (参議院議員)
コメンテーター：川崎 政司 (参議院法制局)
その他
- (9) **地域研究委員会 紛争解決・災害復興のための国際貢献分科会**
(第 2 回)(1 月 2 5 日)
紛争解決と災害復興 - 研究と実践の現状と課題」 その他
- (10) **言語・文学委員会・哲学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同
アジア研究・対アジア関係に関する分科会** (第 3 回)(1 月 2 5 日)
アジア研究における国際化と若手育成について
話題提供 徳永 宗雄先生 (連携会員)
アジアの社会と文化にかかわる大学教育のあり方
(いわゆる「学士力」問題と関連して) について
アジア研究・対アジア関係に関する分科会の今後の予定について
その他

第二部担当

- (1) **基礎医学委員会、健康・生活科学委員会合同 パブリックヘルス科学分科会**
(第 5 回)(1 月 5 日)
提言に向けて「現状と課題」
1) 健康食品の問題
2) 社会経済環境と健康格差とめぐる問題
3) 公衆衛生大学院をめぐって
4) 医療従事者の労働時間等
5) 統計法改正その後の f o l l o w - u p
公衆衛生学関連 学協会連絡協議会 (3 月) の件
その他
- (2) **食料科学委員会、基礎医学委員会、臨床医学委員会合同
新興・再興感染症分科会** (第 3 回)(1 月 6 日)
提言について
新型インフルエンザに関する緊急公開シンポジウム報告について
その他
- (3) **農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会合同 食の安全分科会**
(第 5 回)(1 月 6 日)

提言文書の検討 その他

- (4) **基礎医学委員会 ICLAS分科会**(第2回)(1月7日)
ICLAS理事会報告 ICLAS役員人事について
ICLAS分科会の今後の活動
1) ICLAS分科会と実験動物分科会との合同会議について
その他
- (5) **臨床医学委員会 身体機能回復分科会**(第3回)(1月8日)
耳鼻咽喉科における諸問題 整形外科における諸問題 その他
- (6) **農学委員会・食料科学委員会合同 IUS分科会**(第4回)
農学委員会 土壌科学分科会(第3回)合同会議(1月12日)
PAWEES、MARCO、関連学協会等とIUSホームページとの相互
リンクの依頼
WCSS(ブリスベン)への代表派遣候補者について
IUS分科会の2014WCSS(韓国ソウル)への協力表明
(関連学協会への周知依頼)
地球温暖化対策に対する土壌炭素貯留能の評価と啓蒙
土壌モニタリング、土壌関係資料展示の実態調査とこれらに基づく土壌に関する
シンポジウムと啓蒙書の作製
話題提供「農耕地土壌におけるCO₂吸収固定と温室効果ガス発生緩和策」
(八木 一行氏)
その他
- (7) **農学委員会・食料科学委員会合同 CIGR分科会**(第5回)(1月15日)
CIGRワールド・コンGRESS2010への対応
CIGR国際シンポジウム2011への対応と推進
(プログラム、予算・募金案、各種委員会活動、特別セッション、
エクスカージョン等の検討)
その他
- (8) **薬学委員会 生物系薬学分科会**(第3回)(1月15日)
本日のシンポジウムについて 次回のシンポジウムについて その他
- (9) **臨床医学委員会 放射線・臨床検査分科会**(第3回)(1月18日)
死後画像(AI)についてのヒアリング及び検討 その他
- (10) **臨床医学委員会**(第2回)(1月26日)
日本の展望について 分科会について

臨床医学委員会の今後の活動について その他

第三部担当

(1) **健康・生活科学委員会・環境学委員会合同 環境リスク分科会**
(第4回)(12月25日)

話題提供 その他

(2) **化学委員会(第3回)および化学委員会各分科会合同会議(12月28日)**

講演:「日本の科学技術政策の将来展望」(相澤 益男)

講演:「日本の基礎研究とFundingの動向」(北澤 宏一)

講演:「世界を取り巻く科学(化学)の動き - 時代認識を持ち、先を読もう」
(黒田 玲子)

講演:「IUPAC:その生立ちと活動 - 新元素の名前とシンボルを決める」
(巽 和行)

講演:「日本の展望 - 理学・工学からの提言2010と第4期科学技術基本計
画への提言」(岩澤 康裕)

各分科会から『日本の展望』の報告

(3) **地球惑星科学委員会 地球惑星科学企画分科会(第9回)(12月28日)**

各分科会からの検討・報告 日本の展望について

地球惑星科学における大型研究計画 学術団体の連携について

地球惑星科学連合からの報告 その他

(4) **地球惑星科学委員会(第4回)(12月28日)**

日本学術会議第3部 活動報告 地球惑星科学委員会 活動報告

各分科会活動報告 日本の展望について 学術の大型計画について

基礎科学の振興について 日本地球惑星科学連合からの報告

今後の活動について その他

(5) **総合工学委員会・機械工学委員会合同 フロンティア人工物分科会**
(第3回)(12月29日)

「日本の展望 - 学術からの提言2010」について

「提言 日本の展望 - 理学・工学からの提言2010」について

「総合工学の展望(仮題)」について

「第4期科学技術基本計画への日本学術会議の提言」について

ミレニアムシンポジウム企画案について その他

(6) **地球惑星科学委員会 INQUA分科会(第3回)(12月29日)**
第四紀の定義変更に対する対応に関して

上・中・下部更新統の定義と使用について 第三紀に関して

(7) **土木工学・建築学委員会 景観と文化分科会** (第6回)(1月12日)
話題提供(服部委員、木下委員) 提言で取り上げる内容について
その他

(8) **総合工学委員会・電気電子工学委員会合同 IFAC分科会**
(第6回)(1月20日)
T u n i s i aのIFAC加盟に関する諾否について
IFAC本部事務局からの連絡・依頼事項と国内対応について
IFAC Council Meeting & Related Meeting開催について
IFAC Congress 2017のBid Paper作成について
その他

(9) **機械工学委員会 生産科学分科会** (第3回)(1月22日)
各小委員会の報告 シンポジウム企画について
報告書の取りまとめ方針 その他

(10) **環境学委員会 自然環境保全再生分科会** (第3回)(1月26日)
「日本の展望」について
「生物多様性総合評価について：環境省からのヒアリング」
その他

(11) **総合工学委員会 工学基盤における知の統合分科会** (第6回)(1月27日)
「知の統合体系化小委員会」からの報告
「知の統合推進小委員会」からの報告
「自動制御多分野応用小委員会」からの報告
「知の統合シンポジウム」の企画に関して
「日本の展望(知の統合関係)」について
その他

(12) **物理学委員会 物性物理学・一般物理学分科会** (第4回)(1月27日)
物性研究所協議会委員の推薦
大型施設・大規模研究のとりまとめについて
物一シンポジウムのまとめ方について
「物理学分野の長期展望」のとりまとめ確認
その他

5 課題別委員会の開催とその議題

- (1) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 質保証枠組み検討分科会
 拡大役員会(第4回)、教養教育・共通教育検討分科会 拡大役員会(第1回)
 合同役員会(12月25日)
 今後の検討の方向性について その他
- (2) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 質保証枠組み検討分科会
 (第11回)(1月15日)
 有識者からのヒアリングについて 分野別の参照基準の在り方について
 その他
- (3) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 教養教育・共通教育検討分科
 会 拡大役員会(第2回)(1月15日)
 教養教育の在り方について その他
- (4) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 質保証枠組み検討分科会
 拡大役員会(第5回)(1月20日)
 分野別質保証の枠組みについて その他
- (5) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 大学と職業との接続検討
 分科会(第14回)(1月26日)
 報告書の骨子案について その他

6 サイエンスカフェの開催

- (1) 12月25日(金) 14:00~16:00
 場 所: 文部科学省情報ひろばラウンジ
 テーマ: 幕末と長崎とダーウィン
 講 師: 増崎 英明(長崎大学医学部教授)
 渡辺 政隆(日本学術会議連携会員、科学技術振興機構
 エキスパート(科学コミュニケーション))
- (2) 1月7日(木) 17:30~19:00
 場 所: 石川四高祈念文化交流館2F
 テーマ: 自閉症は治療する必要があるか? 「自閉症に優しい社会を考える」
 講 師: 大井 学(大阪大学大学院 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学
 連合小児発達学研究所副研究科長、
 金沢大学子どものこころの発達研究センター教授)
 コーディネータ: 東田 陽博(日本学術会議連携会員、
 金沢大学医学系大学院/脳細胞遺伝子教授、

金沢大学こどものこころの発達研究センター長)

(3) 1月16日(土) 19:00~20:30

場 所: ダイテックサカエ 5階 喫茶 cafe KONA

テーマ: 地球温暖化 - 科学的な対策の決め手は何か? -

講 師: 長野 靖尚(日本学術会議連携会員、名古屋産業科学研究所上席研究員)

(4) 1月22日(金) 19:00~20:30

場 所: 文部科学省情報ひろばラウンジ

テーマ: 人間はどのように特別なチンパンジーか

講 師: 長谷川 壽一(日本学術会議第一部会員、
東京大学大学院総合文化研究科教授)

ファシリテーター: 山科 直子(東京大学大学院総合文化研究科科学特任教授)

(5) 1月23日(土) 13:00~15:00

場 所: アスト津3階 市民ボランティアセンター

テーマ: 大地を測り、地域を描く~地形図の魅力~

講 師: 野々村 邦夫(日本地図センター理事長、首都大学東京客員教授)

ファシリテーター: 春山 成子(日本学術会議連携会員、
三重大学大学院生物資源学研究科教授)

7 総合科学技術会議報告

1. 本会議

なし

2. 専門調査会

気候変動適応型社会の実現に向けた技術開発の方向性立案のための

タスクフォース(第10回) 12月24日

(1) 気候変動に適応した新たな社会の創出に向けた技術開発の方向性
(最終取り纏め)(案)について

(2) その他

生命倫理専門調査会(第58回) 1月19日

(1) iPS細胞研究の社会的・倫理的課題への取り組み - 国際的動向について

(2) ヒトES細胞等からの生殖細胞の作成に係る検討状況について

(3) ヒトES細胞の樹立計画、設置計画及び使用計画に係る確認及び届出の
状況について

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

- ・ 1月 7日 *会長欠席
- ・ 1月14日 *会長出席
- ・ 1月21日 *会長出席
- ・ 1月28日 *会長出席予定

8 慶弔

慶事

日本国際賞

岩崎 俊一（東北工業大学理事長）第15～17期会員

ご逝去

梅垣洋一郎（うめがきよういちろう） 87歳 1月2日 第13期会員

元国立がんセンター病院診療部長

小島 清（こじまきよし） 89歳 1月7日 第13～14期会員

一橋大学名誉教授

審 議 事 項

審議事項			頁
1 提言等	提案6	報告「黄砂・越境大気汚染物質の地球規模循環の解明とその影響対策」	1
2 団体等の指定	提案7	日本学会会議協力学術研究団体の指定	2
3 国際会議関係	提案8	平成 2 1 年度代表派遣（平成 2 2 年 3 月分）	4
	提案9	イスラエル科学・人文科学アカデミー創立50周年記念式典への会員の派遣	6
4 シンポジウム等	提案10	第 1 6 回ウ・タント記念講演	10
	提案11	公開シンポジウム「黄砂・沙漠緑化・草地保全・人工降雨研究の最前線」	12
	提案12	生体医工学フォーラム2010「トランスレーショナルリサーチ、レギュラトリーサイエンスの現状と課題」	14
	提案13	公開シンポジウム「学校教育の質をどのように評価するか：学校の機能と評価」	16
	提案14	公開シンポジウム「地域主権と道州制」	18
	提案15	公開シンポジウム「ノーベル化学賞記念シンポジウム：大型放射光を使った生体分子の構造解析」	20
	提案16	公開シンポジウム「社会福祉学（ソーシャルワーク実践）大学院教育のあり方 高度専門職養成と研究者養成」	22
	提案17	公開シンポジウム「地理」で学ぶ防災	24
	提案18	公開シンポジウム「環境市民活動は何を目指すのか？ ～環境共生社会における役割と目標について考える～」	26
	提案19	「データセントリックサイエンスがつくる未来」	27
	提案20	「自然災害軽減のための学協会の役割と課題」シンポジウム	28
	提案21	公開シンポジウム「先端フォトニクス展望」	30
	提案22	公開シンポジウム「植物工場における自動化・情報化技術の展望」	32
提案23	公開シンポジウム「生物多様性をめぐる科学と社会の対話」	34	
5 後援	提案24	国内会議	37

その他

6	
幹事会	88

提 案

報告「黄砂・越境大気汚染物質の地球規模循環の解明とその影響対策」

- 1 提 案 者 農学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 農学委員会風送大気物質問題分科会においてこれまで審議してきた結果を別添のとおりとりまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第四号の「報告」として取り扱うこと

7	
幹事会	88

提 案

日本学術会議協力学術研究団体の指定

1. 提 案 者 会 長
2. 議 案 日本学術会議協力学術研究団体の審査結果を回答すること
3. 提 案 理 由 日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込みのあった団体について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答すること
としたい。

記

指定することを適当と認める。

(申請団体名)

- ・日本イェイツ協会
- ・日本看護医療学会
- ・日本マンガ学会
- ・棚田学会
- ・法と精神医療学会
- ・日本口臭学会

団体の概要

- ・ 日本イエイツ協会
わが国におけるイエイツの研究を促進し、あわせて海外の研究者との密接な連絡および協力をはかることを目的としている。
- ・ 日本看護医療学会
看護、医療ならびに福祉に関連する諸分野の知識や実践の体系化をはかり、国民が安心して利用できる包括的ケアシステムの確立と健康増進に奇与することを目的としている。
- ・ 日本マンガ学会
マンガ研究の推進および会員相互の交流を図ることを目的としている。
- ・ 棚田学会
棚田に関する研究、会員相互の意見交換、連絡を図ることによって、棚田の保全に向けた活動を推進することを目的としている。
- ・ 法と精神医療学会
精神医療に関する法学・医学及びその実務の総合的研究ならびに研究者相互の協力を促進し、もって精神医療の充実と改善に奇与することを目的としている。
- ・ 日本口臭学会
口臭・鼻臭・体臭など生体の臭いに関する分野で、学術研究、教育普及活動、医療活動および予防活動を行い、もって国民の保健ならびに公益の増進に奇与することを目的としている。

8	
幹事会	88

提 案

平成21年度代表派遣について（平成22年3月分）

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり実施すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第19条の規定に基づくものである。

<参考> 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」(抄)

(派遣者の選考)

第19条 会長及び関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画に基づき、代表を派遣すべき会議等（以下「代表派遣会議」という。）のそれぞれの内容等に応じて、学術会議会員（以下「会員」という。）の中から適任者を選考し、様式第7に定める代表派遣会議候補者推薦書により派遣候補者を会長に推薦するものとする。ただし、学術会議連携会員（以下「連携会員」という。）の中に適任者があると認められる場合は、その者を候補者として推薦することができる。

2 会長は、前項の規定により推薦された派遣候補者について、原則として代表派遣会議が開始される日の1か月前までに開かれる幹事会の議決を経た上、学術会議の代表として派遣される者（以下「派遣者」という。）として派遣するものとする。

番号	国際会議等	会期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
			計			
1	インターアカデミーカウンスル(IAC)理事会	3月21日	3日	アムステルダム	唐木 英明 第二部会員 東京大学名誉教授	国際委員会 第2区分
		～ 3月23日		オランダ		

9	
幹事会	88

提 案

イスラエル科学・人文科学アカデミー創立 50 周年記念式典への会員の派遣

提 案 者 国際委員会委員長

議 案 標記について、日本学術会議から金澤一郎会長を派遣すること

提案理由 イスラエル科学・人文科学アカデミーよりの金澤会長宛標記式典への出席依頼を受け、2010年3月14日～17日にイスラエル（エルサレム）にて開催されるイスラエル科学・人文科学アカデミー創立 50 周年記念式典にゲストとして金澤一郎会長を派遣することとしたいため。式典の内容等については別添 1 を参照のこと。



THE ISRAEL ACADEMY OF SCIENCES AND HUMANITIES
 האקדמיה הלאומית הישראלית למדעים

Menahem E. Yaari
 President

9 June 2009

Professor Ichiro Kanazawa
 President
 Science Council of Japan
 7-22-34 Roppongi
 Minato-ku
 Tokyo 106-8555
 JAPAN

Dear President Kanazawa,

In the academic year 2009/10, the Israel Academy of Sciences and Humanities will be celebrating the 50th anniversary of its establishment. In marking this important milestone, several scholarly events of international scope are being planned, to take place at the Academy's home in Jerusalem. These will include high-level scientific conferences, workshops for young scholars and scientists, and collaborative projects with sister Academies. The apex of the celebrations will occur in the week 14-20 March, 2010. (The 14th of March, it will be remembered, is Albert Einstein's birthday.) In that week, we intend to host a **Conference of Presidents of Academies and Scholarly Societies**, where "Science and Accountability" would be the central theme to be explored.

Which brings me to the reason for writing today. It gives me great pleasure to invite you herewith to be among our Academy's distinguished guests at the above-mentioned conference and its accompanying events. Specifically, we very much hope that you will be able to join us at the following events:

- March 14 (evening): Albert Einstein Memorial Lecture, to be given by Professor Claude Cohen-Tannoudji;
- March 15 (daytime): An archaeological tour of Jerusalem, to be guided by a team headed by a member of the Israel Academy;
- March 15 (evening): Festive reception and celebration, including concert by the Israel Camerata, with children of Academy members as soloists;
- March 16 (daytime): The conference itself – lectures and presentations by Academy presidents (suggested unifying rationale enclosed separately);
- March 17 (morning): Conference conclusion.

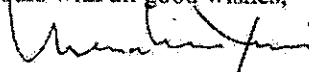
Albert Einstein Sq., POB 4040, Jerusalem 91040 • Phone: (972 2) 5676204 • Fax: (972 2) 5676218
 Email: mey@academy.ac.il • Website: www.academy.ac.il

Rather than attempt to assign specific presentation topics, we ask all our invited scholars to select their own topics, under the already mentioned (rather broad) general theme, namely "Science and Accountability".

Needless to say, our Academy will cover all of the costs incurred by our guests in connection with attending the Presidents' Conference, including travel and accommodations. We shall cover business class airfare, although we are always very grateful when our guests are able to use airline mileage to obtain upgrades.

It would truly be lovely if you could arrange to be with us and to share in our Jubilee celebrations. Welcoming you here, at our Academy, would be a great privilege and pleasure for me.

Yours with all good wishes,



Menahem E. Yaari
President

Science and Accountability
(General Theme for the Academy Presidents' Conference)

Jerusalem, 8 June 2009

Should science, and scientists, be held to account? And if so, what are the principles and/or institutions to which scholars and scientists, *qua* scholars and scientists, are accountable? The Israel Academy of Sciences and Humanities is perhaps especially attuned to these questions, given the unique geo-political circumstances in which Israeli science finds itself. There have even been calls for castigating Israeli science for its alleged failure to abide by the onlookers' perceived norms of accountability.

The task of identifying norms of accountability, if any, that pertain to science as a specific human endeavor and to the scientists engaging in it, is extremely demanding and rarely undertaken in any detail. Such norms would inevitably be both "intra-scientific" (inherent in the scientific enterprise itself) and "extra-scientific" (pertaining to the interrelationships between the scientific enterprise and the environment in which it is undertaken). We propose that this exploration be undertaken, to the extent possible in the framework of a brief gathering, at the Academy Presidents' Conference, to be held in Jerusalem in conjunction with the Israel Academy's 50th anniversary celebrations.

It is proposed that each guest of the Academy Presidents' Conference should select an aspect of the accountability-in-science theme that he/she would want to bring up, and broach this aspect in a 20-minute presentation to the assembled colleagues. Hopefully these brief presentations would set the stage for a lively general discussion.

10	
幹事会	88

提 案

第16回ウ・タント記念講演の開催について

提案者 会 長

議 案 標記について、下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 : 国連大学、日本学術会議
2. 日 時 : 平成22年2月2日(火)10時15分～11時15分
3. 場 所 : 国連大学本部ビル
4. 講演者 : フェリーペ・カルデロン・イノホーサ メキシコ大統領
5. テーマ : 人類の共通遺産である地球環境の保全
～気候変動対策の公平な合意をめざして～

<参考>

ウ・タント記念講演について

ウ・タント記念講演は、ウ・タント元国連事務総長(1961-1971)にちなんで名付けられた講演シリーズで、世界各地から各界の有識者や指導者を招き、21世紀に世界が直面する問題の解決に向けて国際的知識と叡智の交流の場として、国連大学、国連大学高等研究所及び日本学術会議との共催により実施している。過去、マハティール・マレーシア首相、クリントン、カーター米大統領、シリル・エバディ氏などのノーベル賞受賞者などが講演を行った。

プログラム（仮）

- 10:15 10:20 歓迎の辞
武内和彦 国際連合大学（UNU）副学長、国連大学サステナビリティと平和研究所（UNU-ISP）所長
- 10:20 10:50 基調講演
フェリペ・カルデロン・イノホサ メキシコ大統領
[人類の共通遺産である地球環境の保全～気候変動対策の公平な合意をめざして～]
- 10:50 11:15 ディスカッション
モデレーター：浜中裕徳 IGES 理事長
コメンテーター：船橋洋一 朝日新聞主筆、武内和彦

フェリペ・カルデロン・イノホサ大統領は 2006 年 12 月 1 日にメキシコ大統領に就任。任期は 6 年。2003-2004 年にはエネルギー省長官を務める。メキシコのエネルギー部門のトップとして、またメキシコ国営石油公社（PEMEX）連邦電気委員会議長、およびルス・イ・フエルサ・デル・セントロ電力会社の理事会議長として、国有企業の近代化を推進した。

政治家としては国民行動党で調査担当秘書（1987 年）全国青少年担当秘書（1991 年）事務局長（1993 年）連邦選挙機関の PAN 代表（1994 - 1995 年）を歴任。1995 年にミチョアカン州知事選に候補として出馬。2000 年、第 58 回国会の国会議員に当選し、PAN の国会グループ・コーディネーターに任命される（2000-2003 年）。

カルデロン大統領は法学士（エスクエラ・リーブレ・デ・デレーチョ）経済学修士（メキシコ自治工科大学）および行政学修士（ハーバード大学ジョン・F・ケネディ・スクール）の学位を持つ。また在メキシコ米国商工会議所から「NAFTA 議会指導者賞」、メキシコ製造業会議所（CANACINTRA）から「CANACINTRA イーグル賞 行政上の功績賞」を授賞。1997 年から 2000 年まで世界経済フォーラムの「世界の未来のリーダー」のメンバーを務める。

- 主催： 国連大学、日本学術会議
協賛： 朝日新聞、財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）
後援： 株式会社イースクエア

1 1	
幹事会	8 8

提 案

公開シンポジウム

「黄砂・沙漠緑化・草地保全・人工降雨研究の最前線」の開催について

1. 提案者 農学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議農学委員会風送大気物質問題分科会、日本沙漠学会、(独)国際農林水産業研究センター
2. 日 時：平成22年3月2日(火) 14:00～17:00
3. 場 所：(独)国際農林水産業研究センター国際会議場
(茨城県つくば市大わし1-1)
4. 分科会の開催：同日分科会を開催
5. 開催趣旨：

現在も地球規模の環境問題が大きく取り上げられている。過耕作、過放牧、過伐採、過水消費等の環境破壊により沙漠化が進行し、社会問題化して相当年数が経つが、一向に解決されず、むしろ増大している。環境破壊、地球温暖化、関連環境問題がある状況下で、黄砂・沙漠化防止、沙漠緑化、草地保全、人工降雨をキーワードに公開シンポジウムを開催する。COP15 および鳩山イニシアティブのもと GHG 吸収源対策が注目される中で、草方格(方格沙障)は沙漠化防止、沙漠緑化、黄砂発生対策に有効である。中国・モンゴルにおける砂質土壌への有機物の蓄積や炭素固定について CDM の観点から評価するとともに、草地保全による沙漠化・黄砂対策への取組み、および乾燥地域の草地保全と畜産経営の両立について幅広く議論する。また、沙漠化・黄砂防止と沙漠緑化のための液体炭酸人工降雨法の有効性について言及し、将来展望を行う。

6. 次 第 :

14:00 ~ 14:10 開会挨拶

真木 太一 (日本学術会議会員 風送大気物質問題分科会委員長、日本沙漠学会会長、筑波大学北アフリカ研究センター、九州大学名誉教授)

飯山 賢治 ((独)国際農林水産業研究センター理事長)

14:10 ~ 15:30

座長 : 青木 正敏 (日本学術会議連携会員、東京農工大学大学院共生科学技術研究院)

(1) 方格沙障法を基盤技術とした流動砂丘の緑化と黄砂発生防止ための草地保全による GHG シンク強化

飯山 賢治 ((独)国際農林水産業研究センター) ・ 金 貞福 (中国浙江林業大学工学工程)

(2) モンゴルにおける草地保全と畜産経営の両立を目指した研究・調査の紹介

鳥山 和伸 ((独)国際農林水産業研究センター)

15:30 ~ 15:40 休憩

15:40 ~ 16:55

座長 : 早川 誠而 (日本学術会議連携会員、山口大学名誉教授)

(3) 黄砂・沙漠化防止用草方格の気象改良と沙漠緑化への人工降雨普及の可能性

真木 太一 (日本学術会議会員、筑波大学 北アフリカ研究センター、九州大学名誉教授)

(4) 過冷却積雲への液体炭酸撒布人工降雨実験 - 山口県長門市沖での実施例 -

脇水 健次 (九州大学大学院農学研究院)

16:55 ~ 17:00 閉会挨拶

鈴木 義則 (日本学術会議連携会員、九州大学名誉教授)

7. 関係部の承認の有無 : 第二部承認

1 2	
幹事会	8 8

提 案

生体医工学フォーラム 2010「トランスレーショナルリサーチ、レギュラトリーサイエンスの現状と課題」の開催について

1. 提案者 基礎医学委員会委員長
2. 提 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議基礎医学委員会生体医工学分科会、日本生体医工学会
2. 後 援：医療技術産業戦略コンソーシアム (METIS)
3. 日 時：平成22年3月3日(水) 9:50～17:40
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 同日、基礎医学委員会生体医工工学分科会を開催予定。
6. 開催趣旨：

日本はさまざまな先端的複合機械製品での高い競争力を持つものづくり技術を有しているが、医療機器分野ではその競争力は限定的であり、特に治療機器分野ではその競争力が弱まってきています。日本が有する最先端技術を活用することにより、種々の先端的な医療機器が開発されることが期待されており、新医療機器・医療技術産業ビジョンが策定され、革新的医薬品・医療機器創出のための5カ年計画(文科省・厚労省・経産省 H19.4.26)において、“我が国の優れた研究開発力を基盤に、革新的医薬品・医療機器の国際的開発・提供体制に我が国が参加していくとともに、日本で開発される革新的医薬品・医療機器の世界市場におけるシェアが拡大されることを通じて、医薬品・医療機器産業を日本の成長牽引役へ導くことを目指します。世界最高水準の医薬品・医療機器を国民に迅速に提供することを目標とする。”ことが唱われています。

日本学術会議基礎医学委員会生体医工工学分科会では、昨年度これらの活動の一環であるスーパー特区に関する話題を取り上げ、議論を行ったところであります。本年度は開発サイドの考える安全性と患者の考える安心の壁を埋め、社会的コンセンサスや妥当性を検討するための科学である、“レギュラトリーサイエンスに関する話題”を取り上げ、関連する研究教育活動の推進、日本の医療機器開発力の向上にむけての方策について、産・官・学の有識者および研究者が一堂に会して議論することにより、その実現のロードマップを探ることを目的に開催致します。

7. 次 第 (予 定) :

開会の挨拶 9:50-10:00	梶谷文彦 (日本学術会議連携会員、日本学術会議基礎医学委員会生体医工学分科会委員長)
TR の実践と教育 10:00-10:30 10:30-11:00	司会 : 佐久間一郎 伊関 洋 (東京女子医科大学) 笠貫 宏 (早稲田大学)
公的機関の立場から 11:00-11:30 11:30-12:00	司会 : 安藤譲二 (日本学術会議連携会員) 松岡 厚子 (国立衛生研究所) 本間 一弘 (産業技術総合研究所)
昼休み 12:00-13:00	
特別講演 政策科学の立場から 13:00-13:50	司会 : 梶谷文彦 (日本学術会議連携会員) 林 良造 (東京大学)
TR 推進にむけて 13:50-14:20 14:20-14:50 14:50-15:20	司会 : 谷下一夫 (日本学術会議連携会員) 川上 浩司 (京都大学) 楠岡 英雄 (日本学術会議連携会員、国立病院機構大阪医療センター) 澤 芳樹 (大阪大学)
休憩 15:20-15:40	
行政の立場から 15:40-16:00 16:00-16:20 16:20-16:40 16:40-17:00	司会 : 土肥健純 (日本学術会議連携会員) 増永 明 (経済産業省商務情報政策局医療福祉機器産業室) 池田千絵子 (厚生労働省医政局医療機器政策室) 講演者未定 (文部科学省) 講演者未定 (内閣府)
産業界の立場から 17:00-17:30	司会 : 橋爪誠 (日本学術会議連携会員) 荻野和郎 (医療技術産業戦略コンソーシアム (METIS))
閉会の挨拶 17:30-17:40	楠岡 英雄 (日本学術会議連携会員、日本生体医工学会会長)

8. 関係部の承認の有無 : 第二部承認

1 3	
幹事会	8 8

提 案

公開シンポジウム「学校教育の質をどのように評価するか：学校の機能と評価」 の開催について

1. 提案者 心理学・教育学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：日本学術会議心理学・教育学委員会教育の質向上検討分科会
2. 共 催：東京大学大学院教育学研究科 学校教育高度化センター
3. 後 援：日本教育学会、日本教育方法学会 日本教育社会学会（現在 依頼中）
4. 日 時：2010年3月5日(金) 13:00～17:00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会：同日に分科会を12時から13時に開催予定

7. 開催趣旨：

教育の質と平等の保障はこれからの日本の教育における最重要課題である。その具体的な実現のためには、学校教育における質と卓越性の保障を実現する、国や地方自治体における教育政策、学校における教育制度的システムを再検討し確立することが求められている。今回のシンポジウムでは、学校教育の質の評価、なかでも学校評価という点に焦点を絞り、国際的視点をふまえ、各国が質の評価のためにいかなる政策や方法をとって学校評価を進めているのかとすることを議論する。これによって本分科会として、日本のこれからの教育政策提言へとつなげていく討論を一般公開で行う機会とすることを目的としている。

8. 次 第：

- 13:00 開始 全体司会 岡田加奈子（千葉大学准教授・連携会員）
13:00～13:10 分科会の活動と本シンポジウム趣旨説明

- 秋田喜代美（東京大学教授・一部会員）
- 13:10～13:15 コーディネーターによる議事進行の方法や登壇者紹介
大田直子（首都大学東京教授・連携会員）
- 13:15～13:40 日本における学校評価
勝野正章（東京大学准教授・ゲスト）
- 13:40～14:05 イギリスにおける学校評価
志水宏吉（大阪大学教授・連携会員）
- 14:05～14:30 アメリカにおける学校評価
大桃敏行（東京大学教授・連携会員）
- 14:30～14:55 フィンランドにおける学校評価
渡邊あや（熊本大学准教授・ゲスト）
- 休憩 14:55～15:05
- 15:05～15:15 指定討論 藤村宣之（東京大学准教授・連携会員）
- 15:15～15:25 指定討論 乾 彰夫（首都大学東京教授・連携会員）
- 15:25～15:35 指定討論 無藤 隆（白梅学園大学教授・連携会員）
- 15:35～17:00 討論
- 17:00 終了

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

14	
幹事会	88

提 案

公開シンポジウム「地域主権と道州制」の開催について

1. 提案者：政治学委員会委員長
2. 議 案：標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 政治学委員会行政学・地方自治分科会
P H P 総合研究所、早稲田大学公共経営研究科

2. 日 時 平成22年3月5日(金)13時～17時

3. 場 所 早稲田大学小野講堂(新宿区西早稲田、同大学内)

4. 開催趣旨

地方分権、財政危機、憲法改正など幾つかの複合的な背景を持ちながら、安倍政権以降、わが国で具体的な改革プログラムとして「道州制」移行問題が浮上し、制度設計がそれなりに進んでいる。政府の道州制ビジョン懇談会から昨年3月中間報告が出され、自民党道州制推進本部の第3次中間報告が行われ、マニフェストにもその移行が記されている。

この問題はこれまで地方分権推進改革委員会、地方制度調査会、全国知事会、経済団体、シンクタンクなど多くの機関で取り上げられ、2018年の移行目標まで設定された経緯がある。政権交代に伴い、地域主権国家の形成と府県制度見直し、道州制移行は今後どうなるのか。道州制論は明治23年からの47府県制度を廃止し、約10州の広域自治体へ移行する提案であり、その内容は国、府県、市町村の役割や公務員制度、税財政の仕組みに大幅な見直しを迫るものである。国民生活に与える影響も大きい。

本シンポジウムでは政治、行政、税財政、国際関係など様々な論点を学術研究の視点から掘り下げてみたい。

5. 次 第

- 13:00～13:05 開会挨拶
- 13:05～13:45 基調講演1「新たな国のかたちと道州制」
江口 克彦(道州制ビジョン懇談会座長、元P H P 総合研究所社長)
- 13:45～14:15 基調講演2「地域主権の国づくりと道州制」
逢坂 誠二(衆議院議員、前二セコ町長)

- 14:15 ~ 14:35 基調講演 3 「地域主権国家と税財政のあり方」
池上 岳彦（立教大学経済学部教授）
- 14:35 ~ 15:05 基調講演 4 「諸外国の道州制 その実際と課題」
片木 淳（早稲田大学大学院公共経営研究科教授）
- 15:15 ~ 16:45 パネルディスカッション「地域主権の形成と道州制を考える」
コーディネータ：佐々木信夫（中央大学経済学部教授、日本学術会議連
携会員）
パネリスト：逢坂 誠二（同上）
池上岳彦（同上）
片木 淳（同上）
永久 寿夫（PHP総合研究所常務取締役）
討 論 者：縣 公一郎（早稲田大学政治経済学術院教授、日本学術会
議連携会員）

17:00 閉 会

6 . 関係部の承認の有無：第一部承認

15	
幹事会	88

提 案

公開シンポジウム「ノーベル化学賞記念シンポジウム：大型放射光を使った生体分子の構造解析」の開催について

1. 提案者 化学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主催：化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会
2. 共催：日本放射光学会、日本結晶学会、蛋白質科学会、東京大学放射光連携研究機構
3. 後援：なし
4. 日時：平成22年3月6日（土）14:00-17:00
5. 場所：東京大学薬学講堂（薬学部総合研究棟）
6. 分科会の開催：なし
7. 開催趣旨：放射光を用いた蛋白質構造解析および機能解明の技術が飛躍的に進歩し、従来困難とされてきた膜蛋白などの構造解明が進められている。そこで本シンポジウムにおいて国内外で最先端の研究を行っている研究者を招いてこの分野の現状と将来展望を議論することで、若手研究者の育成、本分科会の活動に資する。

8 . 次 第 :

挨 拶 : 濱田純一 (東京大学総長)

講演 1 : Ada E. Yonath (ワイツマン科学大学教授、2009 年ノーベル化学賞
受賞)

講演 2 : 月原富武 (兵庫県立大学教授)

講演 3 : 大橋裕二 (高輝度光科学研究センター)

講演 4 : 飯島澄男 (名城大学教授)

司 会 岩澤康裕 (日本学術会議第三部部長)

9 . 関係部の承認の有無 : 第三部承認

10 . 申し込み方法・連絡先

尾嶋正治 (連携会員)

連絡先 : oshima@sr.t.u-tokyo.ac.jp

16	
幹事会	88

提 案

公開シンポジウム「社会福祉学（ソーシャルワーク実践）大学院教育のあり方
高度専門職養成と研究者養成」の開催について

1. 提案者 日本学術会議社会学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議社会学委員会社会福祉学分科会
2. 共 催 日本社会福祉系学会連合
3. 日 時 2010年3月27日(土) 13:00～15:00
4. 場 所 東洋大学白山キャンパス6号館2階6204教室
5. 分科会の開催 同日に分科会開催予定

6. 開催趣旨

日本社会福祉教育学校連盟に加盟している大学院に提出された修士論文、博士論文のテーマおよび指導教授の把握、大学院所属の専任教員の専門、学位の有無、所属学会などについて実態を調査した。この調査により日本の社会福祉学（ソーシャルワーク実践）教育の博士前期課程（修士課程）、博士後期課程の現状と課題が明らかになった。

現行の大学院教育では研究者養成を前提に論文指導を中心とした教育が行われている。だが、社会的には高度なコンペテンシーを体得したソーシャルワーカー養成が期待されている。本シンポジウムでは伝統的な研究者養成とスクールソーシャルワーカー、虐待対応ソーシャルワーカーといったスペシフィックソーシャルワーカー養成と大学院教育との関係についても議論する。

7. 次 第

13:00- 開会挨拶

白澤 政和（大阪市立大学教授・日本学術会議会員）

13:10- シンポジウム

シンポジスト

大友 信勝（龍谷大学教授・日本学術会議特任連携会員）

太田 義弘（関西福祉大学教授・日本学術会議特任連携会員）

古川 孝順（東洋大学教授・日本学術会議連携会員）

コメンテーター

大橋 謙策（日本社会事業大学学長・日本学術会議連携会員）

上野谷加代子（同志社大学教授・日本学術会議連携会員）

コーディネーター

高橋 重宏（東洋大学大学教授・日本学術会議連携会員）

15:00- 閉会

8 . 関係部の承認の有無：第一部承認

17	
幹事会	88

提 案

公開シンポジウム「地理」で学ぶ防災の開催について

1. 提案者：地域研究委員会委員長、地球惑星科学委員会委員長
2. 議 案：標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育分科会委員長
社団法人日本地理学会災害対応委員会・地理教育専門委員会

2. 日 時
平成22年3月27日（土曜日） 13:00 - 16:30

3. 場 所
法政大学市ヶ谷キャンパス（東京都千代田区富士見2丁目17-1）

4. 開催趣旨
自然災害が多発するわが国においては、国民の間に自然災害に関する的確な知識が共有されていることが必要である。このためには、初等・中等教育の段階から自然災害について学ぶ防災教育が重要であるが、自然災害は自然現象が地域の人々の活動に負のインパクトを与える現象であり、地域を軸に自然と人文・社会とを総合的に学ぶ「地理」が防災教育に果たすべき役割は大きい。そこで本シンポジウムでは、防災地理学の専門家と学校現場の教員等により、地理学・地理教育の立場から、学校教育の中での防災教育のありかたや方法を議論する。

5. 次 第
 - 13:00 熊木洋太（専修大・日本学術会連携会員）：シンポジウムの趣旨説明
 - 13:15 浅川俊夫（埼玉県立浦和一女高）：地理教育における災害や防災にかかわる学習の位置づけ
 - 13:40 寺本 潔（玉川大）・大西宏治（富山大）：小学生を対象とした防災教育
 - 14:00 高圓省三（墨田区立文花中学校）：中学生を対象とした防災教育
 - 14:20 伊藤智章（静岡県立吉原高）：高等学校地理における防災教育
 - 14:40 鈴木康弘（名古屋大）：防災教育における大学の役割と地理の位置づけ
 - 15:00 休憩
 - 15:10 美澤綾子（静岡県立静岡高）：理科（地学）の立場から
 - 15:25 井田仁康（筑波大）：地理教育専門委員会の立場から

15:40 田村俊和（立正大・日本学術会議連携会員）
春山成子（三重大・日本学術会議連携会員）
災害リテラシーを高める基礎としての学校地理教育

16:00 総合討論

司会：平井幸弘（駒澤大学教授）・熊木洋太（専修大・日本学術会議連携会員）

16:30 終了

6．関係部の承認の有無：第一部承認

18	
幹事会	88

提 案

公開シンポジウム「環境市民活動は何を目指すのか？
～環境共生社会における役割と目標について考える～」の開催について

- 1 提案者 地域研究委員会委員長、環境学委員会委員長、地球惑星科学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 IHDP 分科会
社団法人日本地理学会
2. 日 時 平成22年3月28日(日) 13時00分～17時00分
3. 場 所 法政大学市ヶ谷キャンパス
4. 開催趣旨

近年では環境保全を目的とした市民活動が積極的に展開されており、このことは市民参加により本格的な環境共生社会が実現できることを示しているといえる。一方、日本学術会議 IHDP 分科会は、これまで国際的な環境研究活動を支援する役割を果たしてきた。そこで IHDP 分科会主催シンポジウムでは、環境市民活動の役割と目標に焦点を当てて、その目指す到達点について議論を行うことを目的とし、議論の成果をもとに国内外への情報発信を行う。

5. 次 第
 - 趣旨説明 山本佳世子(電気通信大学、日本学術会議 IHDP 特任連携会員)
 - 基調講演 原科幸彦(東京工業大学)「環境共生社会における市民活動の役割と目標」
 - 報 告
 - (1) 和泉潤(名古屋産業大学、日本学術会議 IHDP 特任連携会員)
「市民参加による環境共生都市づくり」
 - (2) 松山薫(東北公益文科大学)「地域資源の発掘・利用 山形とアルカディア」
 - (3) 浅野敏久(広島大学)「湖沼地域における市民による環境運動」
 - (4) 木本浩一(広島女学院大学)
「スコットランドにおける市民参加の森づくり 森林トラストを中心として」
 - (5) 山本佳世子(電気通信大学、日本学術会議 IHDP 特任連携会員)
「環境学習による市民主体の地域づくり」
 - コメント 香川雄一(滋賀県立大学)
山室真澄(東京大学)
 - 総合討論 司会:和泉潤(名古屋産業大学、日本学術会議 IHDP 特任連携会員)
 - 総 括 碓井照子(奈良大学、日本学術会議会員)
6. 関係部の承認:第一部承認

19	
幹事会	88

提 案

「データセントリックサイエンスがつくる未来」の開催について

1. 提案者 情報学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：情報学委員会大量実データの利活用基盤分科会
2. 共 催： なし
3. 後 援： なし
4. 日 時：平成 22年 3月 29日(月) 15:30 ~ 17:30
5. 場 所： 統計数理研究所
6. 分科会の開催： なし
7. 開催趣旨：国内のデータマイニング、機械学習、統計科学等の大量実データの利活用に関わる若手研究者が年度末一同に集る研究会にあわせてシンポジウム開催することにより、本分科会の設立目的の啓発を行うとともに、若手研究者との意見交流を通じて今後の本分科会の活動に資する。
8. 次 第：
〔 講演 1. 北川 源四郎 (統計数理研究所 所長/分科会 委員長)
 講演 2. 中島 秀之 (公立はこだて未来大学 学長/分科会 副委員長) 〕
司会 樋口 知之 (統計数理研究所/分科会 幹事)
9. 関係部の承認の有無：第三部承認

20	
幹事会	88

提 案

「自然災害軽減のための学協会の役割と課題」シンポジウムの開催について

1. 提案者 土木工学・建築学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：土木工学・建築学委員会 大規模地震災害総合対策分科会
2. 共 催：(社)地盤工学会、地域安全学会、(社)土木学会、(社)日本建築学会、(社)日本地震学会、日本地震工学会、日本風工学会、日本自然災害学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成22年3月31日(水)13:00 ~ 17:00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：分科会を開催する。平成22年3月31日(水)12:00~13:00
7. 開催趣旨：南海トラフ沿いの巨大海溝型地震や首都圏直下の地震の発生の逼迫性が高まり、また地球規模での気候変動に起因していると考えられる。風水害も多発している状況から、これらの自然災害に対する対策を促進するため、日本学術会議と関連学協会には、さらなる調査・研究と技術開発の促進および成果の社会への還元が求められている。また、多角的、多面的な防災対策を実現するためには学協会横断の学際的な取り組みが不可欠と考えられる。
このため、これまで各学協会が果たして来た役割を総括し、今後共同して取り組むための課題を明らかにするとともに、災害軽減のための学協会活動を総合化・高度化するための「防災学協会連合組織」の設立の可能性を検討する。

8 . 次 第 :

報告 (各 15 分)

(社)地盤工学会 龍岡文夫 (連携会員)
地域安全学会 (案) 重川希志依 (富士常葉大学)
(社)土木学会 (案) 当麻純一 (電力中央研究所)
(社)日本建築学会 和田章 (連携会員)
(社)日本地震学会 島崎邦彦 (連携会員)
日本地震工学会 濱田政則 (第三部会員)
日本自然災害学会 今村文彦 (連携会員)

パネルディスカッション (120 分)

コーディネータ

浅岡顕 (連携会員)

長谷見雄二 (連携会員)

パネリスト (案)

(社)地盤工学会 風間基樹 (東北大学)
地域安全学会 立木茂雄 (同志社大学)
(社)土木学会 今村文彦 (連携会員)
(社)日本建築学会 福和伸夫 (名古屋大学)
(社)日本地震学会 武村雅之 (鹿島 小堀研究室)
日本地震工学会 目黒公郎 (東京大学)
日本自然災害学会 未定

9 . 関係部の承認の有無 : 第三部承認

10 . 申し込み方法・連絡先

和田章 (連携会員)

連絡先 : wada@serc.titech.ac.jp

21	
幹事会	88

提 案

公開シンポジウム「先端フォトニクスの展望」の開催について

1. 提案者 総合工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催： 総合工学委員会 IC0 分科会
2. 共 催： 応用物理学会
3. 後 援： 電子情報通信学会、日本物理学会、レーザー学会ほか
4. 日 時： 平成22年4月9日（金） 13:00～18:00
5. 場 所： 日本学術会議講堂
6. 分科会の開催： IC0 分科会
7. 開催趣旨：
「光」というキーワードをもつ各学会の最先端の話題を集めた講演会を開催し、光科学のインパクトやイノベーションを国内にアピールすると共に、次世代を担う若手研究者の育成、新しい産業やコミュニティの創生を推進する。
8. 次 第：
13:00 開会挨拶
挨拶 金澤一郎（日本学術会議会長）

挨拶 後藤俊夫（日本学術会議第三部副部長、中部大学）

挨拶 矢川元基（日本学術会議総合工学委員会委員長、東洋大学）

13:15 趣旨説明 小舘香椎子（日本学術会議第三部会員）

13:25 講演 荒川泰彦（日本学術会議第三部会員、東京大学）「先端電子光融合」

13:55 講演 山本喜久（スタンフォード大学）「量子光学」

14:25 講演 香取秀俊（東京大学）「光格子時計」

14:55 講演 向井孝志（日亜化学）「窒化物半導体発光デバイス」

15:25 講演 河田 聡（大阪大学）「プラズモニクスとナノフォトニクス」

15:55 休憩

16:10 ポスタープレビュー

17:10 休憩

17:30 ポスターセッション（会場 はーといん乃木坂 予定）

9 . 関係部の承認の有無：第三部承認

22	
幹事会	88

提 案

公開シンポジウム

「植物工場における自動化・情報化技術の展望」の開催について

1. 提案者 農学委員会委員長、食料科学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：農学委員会・食料科学委員会合同農業情報システム学分会
2. 後 援：日本農業工学会、日本生物環境工学会、農業情報学会、
農業機械学会、生態工学会、園芸学会、農業施設学会、
農業気象学会
3. 日 時：平成22年4月27日（火）13：00～17：00
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会の開催：同日分科会を開催
6. 開催趣旨：
本シンポジウムは平成21年7月に開催された日本学術会議シンポジウム「知能的太陽光植物工場」（主催：日本学術会議農業情報システム学分会）に続く知能的太陽光植物工場を主題としたシンポジウムであり、今回は「自動化・情報化」という知能的太陽光植物工場の今後の飛躍的展開に不可欠であるキーテクノロジーを取り上げ、学際・複合領域である本学術分野の学術的発展および研究開発の更なる進展を図るため、広く意見聴取並びに意見交換を行なう。

7. 次 第 :

開会あいさつ : 野口 伸 (北海道大学大学院農学研究院教授、日本学術会議会員、日本学術会議農業情報システム学分会委員長)

講演 (13:10~15:10)

- 1) 丸尾 達 (千葉大学准教授、日本学術会議農業情報システム学分会オブザーバ)
「日本型 (アジア型) 太陽光植物工場の開発と栽培上の課題について
- トマトの低段密植周年栽培、葉菜類の高効率周年栽培野の事例 - 」
- 2) 清水 浩 (京都大学教授、日本学術会議農業情報システム学分会オブザーバ)
「植物からの情報を利用した環境制御手法」
- 3) 門田充司 (岡山大学教授)
「植物工場におけるロボット化技術の現状」
- 4) 鳥居 徹 (東京大学教授)
「「パラレルロボットの植物工場への応用 (可能性)」」

休憩 (15:10~15:30)

総合討論 (15:30~16:50)

コーディネータ (2名) :

清水 浩 (京都大学教授、日本学術会議農業情報システム学分会オブザーバ)

仁科弘重 (愛媛大学教授、日本学術会議農業情報システム学分会オブザーバ) (前回シンポジウム事務局長)

閉会あいさつ : 古在豊樹 (千葉大学環境健康フィールド科学センター教授、日本学術会議連携会員)

8. 関係部の承認の有無 : 第二部承認

23	
幹事会	88

提 案

公開シンポジウム「生物多様性をめぐる科学と社会の対話」の開催について

1. 提案者 統合生物学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議統合生物学委員会、兵庫県豊岡市、ひょうご環境創造協会、新潟大学超域朱鷺プロジェクト
2. 後 援：環境省、第10回生物多様性条約締約国会議支援実行委員会、兵庫県、国際自然保護連合
3. 日 時：平成22年5月22日(土) 13:00～17:30
4. 場 所：兵庫県豊岡市 市民プラザ(豊岡市大手町4丁目5番地)
5. 分科会の開催：同日委員会を開催
6. 開催趣旨：

統合生物学は、遺伝子から生態系までの生物学的階層における複雑で動的な生物のシステムを、生命史・進化の視点を重視して科学的に解明する基礎科学分野を広く含み、生物多様性を直接的に研究対象とする。また、生物多様性の保全、自然再生などに関する社会的な課題とその解決に関する応用分野として、保全生態学を含む。

2010年は、国際生物多様性年であり、10月には生物多様性条約第10回締約国会議が名古屋で開催される。国際生物多様性の日である同年5月22日に、生物多様性の保全・再生に関する先進地域の一つである兵庫県豊岡市において、以下の目的のもとに、生物多様性に関する科学と社会の対話に資するシンポジウムを開催する。

- 1) 統合生物学分野における生物多様性研究の最新の成果をわかりやすく社会に伝える。
- 2) 統合生物学委員会「生物多様性の保全と持続可能な利用に関する学術分野からの提言」を公表する。
- 3) 現在日本各地で取り組まれている生物多様性の保全・再生・活用に関する実践について、多様な主体間で情報交換をすることを通じて、統合生物学の役割と今後の発展方向を探る。

本シンポジウムを通じて統合生物学の今の姿を社会に伝えるとともに、地方自治体、市民、産業、宗教、メディア、大学など、多様な主体が相互にかかわりながらすすめている生物多様性の保全・再生・持続可能な活用のための活動・実践について情報を交換することで、統合生物学委員会の提言が、現在、急速に深刻化する生物多様性の危機に適切に対処し持続可能性を確保するための課題と解決の方向性を探るうえで社会的な意義を有することを確認し、今後の委員会活動をいっそう活発に展開するための契機とする。

7. 次 第 :

13:00 ~ 13:20 開会にあたって

日本学術会議統合生物学委員会から 鷲谷いづみ（日本学術会議会員、統合生物学委員会委員長）
開催地からのメッセージ「コウノトリもすすめる地域づくり」中貝宗治（豊岡市長）

13:20-15:30 第一部 リレートーク 統合生物学が切りひらく生物多様性研究の最前線

- ・世界に花が咲いた日 西田治文（日本学術会議連携会員）
- ・生命史 40 億年に起こった 3 大事件の犯人探し 美宅成樹（日本学術会議連携会員）
- ・微生物の生物多様性を訪ねて 今中忠行（日本学術会議第三部会員）
- ・深海：生物多様性のゆりかご 北里 洋（日本学術会議第三部会員）
- ・飛べなく進化した鳥類の悲劇 松本忠夫（日本学術会議連携会員）
- ・生物行動の多様性を科学する 長谷川真理子（日本学術会議連携会員）
- ・動物の心と人の心 長谷川壽一（日本学術会議第一部会員）
- ・人類は多様性が減少してきた 斎藤成也（日本学術会議第二部会員）

15:30 ~ 15:45 休憩

15:45～16:00 第二部 統合生物学委員会からの提言

「生物多様性の保全と持続可能な利用のために：学術分野からの提言」

鷲谷いづみ

16:00～17:30 第三部 地域の挑戦／皆の挑戦／私の挑戦

- ・皆で集める生き物データ 上田尚志（コウノトリ市民研究所）
- ・「自然再生ふくいプロジェクト」がめざす総参加
松村俊幸（福井県自然環境課）
- ・仏教者と自然再生：里山保全と外来種対策 千坂げんぼう（知勝院）
- ・大学の挑戦：新潟大学がめざす自然再生学 箕口秀夫（新潟大学）
- ・ブナとともに生きる町が誇る生物多様性 若見雅明（黒松内町長）
- ・生物多様性を科学記事にする 中村浩彦（朝日新聞社科学医療部）

17:30-17:50 第四部 意見交換／総合対話

8．関係部の承認の有無：第二部承認

24	
幹事会	88

提 案

国内会議の後援

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部等に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

後援する

名 称 等	申 請 者	審議付託先
第10回グリーン・サステイナブル ケミストリー シンポジウム 主催：グリーン・サステイナブル ケミストリー ネットワーク 期間：平成22年3月4日～5日 場所：学術総合センター・一橋記念講堂	グリーン・サステイナブル ケミストリー ネットワーク会長	第二部 第三部
第1回国際常民文化研究機構・国際シンポジウム「海民・海域史からみた人類文化」 主催：国際常民文化研究機構・神奈川大学日本常民文化研究所所長 期間：平成22年3月27日～28日 場所：神奈川大学セレストホール	国際常民文化研究機構運営委員会委員長 神奈川大学日本常民文化研究所所長	第一部
日本化学会第90春季年会特別企画「物質や生体の姿を描く先端計測科学：原子分子から・超分子・細胞・生体まで」 主催：日本化学会 期間：平成22年3月29日 場所：近畿大学	日本化学会会長	第三部
日本海洋学会ワークショップ「ブレイク・スルー研究をめざして」 主催：日本海洋学会 期間：平成22年3月30日 場所：東京海洋大学	日本海洋学会会長	第三部
第47回日本伝熱シンポジウム 主催：社団法人日本伝熱学会 期間：平成22年5月26日～28日 場所：札幌コンベンションセンター	社団法人日本伝熱学会会長	第三部